

# 渡邊徹心 学位論文審査要旨

主 査 梅 北 善 久  
副主査 林 一 彦  
同 山 元 修

## 主論文

Novel morphological study of solar lentiginos by immunohistochemical and electron microscopic evaluation

(老人性色素斑に対する免疫組織化学と電子顕微鏡を用いた新たな形態学的評価)

(著者：渡邊徹心、田平真琴、森野慎一、堀江享史、足立孝司、堤玲子、山田七子、  
吉田雄一、山元修)

平成25年 Journal of Dermatology 40巻 528頁～532頁

## 参考論文

1. Intralymphatic histiocytosis with granuloma formation associated with orthopaedic metal implants

(整形外科の金属インプラントに関連した肉芽腫形成を伴ったリンパ管内組織球症)

(著者：渡邊徹心、山田七子、吉田雄一、山元修)

平成20年 British Journal of Dermatology 158巻 402頁～404頁

2. A morphological study of granulomas induced by subcutaneous injection of leuprorelin acetate

(酢酸リュープロレリンの皮下注射により生じた肉芽腫の形態学的研究)

(著者：渡邊徹心、山田七子、吉田雄一、山元修)

平成21年 Journal of Cutaneous Pathology 36巻 1299頁～1302頁

3. Granulomas induced by subcutaneous injection of a luteinizing hormone-releasing hormone analog: a case report and review of the literature

(LH-RH アナログの皮下注射により生じた肉芽腫：症例報告と総括)

(著者：渡邊徹心、山田七子、吉田雄一、山元修)

平成22年 Journal of Cutaneous Pathology 37巻 1116頁～1118頁

## 審査結果の要旨

本研究は、老人性色素斑の発症メカニズムについて、免疫組織化学的手法と透過型電子顕微鏡を用いて新たな形態学的検討を行ったものである。その結果、表皮基底細胞の変性、表皮幹細胞マーカーの発現、真皮の遊走能と消化能を欠く factor XIIIa ならびに CD163 を発現するメラニン色素貪食性 poorly stimulatory macrophages の存在が新たに確認された。この真皮に常駐するマクロファージが真皮の色素沈着を維持し、基底層への紫外線による繰り返される傷害が基底細胞や表皮幹細胞の性質を帯びた細胞の反応的増殖を起こしていることが示唆された。本論文の内容は皮膚科学、美容医学の分野で、老人性色素斑の発症メカニズムに対し新たな考え方を提示するとともに、非侵襲的な治療法の開発に結びつく可能性を示した点で、明らかに学術水準を高めたものと認める。